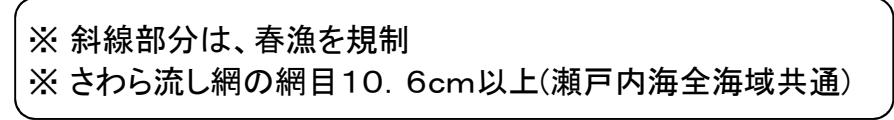


資料 1－3

- ①漁獲管理措置（令和２年度）・・・・・・・・１頁
- ②令和２年度さわら広域資源管理の取組・・・・・・・・２頁
- ③サワラの漁獲状況（各府県からの漁獲報告による）・・・・・・・・３頁
- ④瀬戸内海における2020年前半の漁業が
さわら瀬戸内海系群の資源に与える影響の検討・・・・・・・・４頁
- ⑤今後のサワラ資源管理の検討方向について・・・・・・・・10頁

4



令和2年度 さわら広域資源管理の取組

1. 資源管理措置

(1) 漁獲管理

海域(灘)・漁業種類ごとの漁獲管理措置

海 域	漁 業 種 類	規 制 措 置
紀伊水道外域	ひき縄等	さわらを目的とした操業の禁止 (5/15～6/20)
紀伊水道	ひき縄等	さわらを目的とした操業の禁止 (5/15～6/20)
大阪湾	さわら流し網	春漁(6/5～7/11)→休漁 網目→10.6cm以上
	ひき縄	さわらを目的とした操業の禁止 (5/25～6/30)
播磨灘	さわら流し網	秋漁(9/1～9/30)→休漁 網目→10.6cm以上
	ひき縄	さわらを目的とした操業の禁止 (9/1～11/30)
	はなつぎ網	火曜日、土曜日に加え、輪番により4日間 (5月14日、21日、28日、6月25日)の休漁 操業時間の1時間短縮
	さわら船曳網	火曜日、土曜日に加え、輪番により4日間 (5月1日、3日、4日、6月17日)の休漁 操業時間の1時間短縮
備讃瀬戸	さわら流し網	秋漁(9/1～9/30)→休漁 網目→10.6cm以上
	ひき縄	さわらを目的とした操業の禁止 (9/1～11/30)
燧灘	さわら流し網	秋漁(9/1～9/30)→休漁 網目→10.6cm以上
	さごし巾着網	漁獲量→年間46トを上限
	さごし流し網	全面休漁
安芸灘	さわら流し網	秋漁(9/1～9/30)→休漁 網目→10.6cm以上
伊予灘	さわら流し網	春漁(5/16～6/15)→休漁 網目→10.6cm以上
周防灘	さわら流し網	春漁(5/1～5/31)→休漁 網目→10.6cm以上
宇和海	さわら流し網	春漁(5/1～5/31)→休漁
	さごし・めじか流し網	8/1～9/30→休漁

(注) 9/1以降の許可を秋漁とする。

(2) 種苗放流

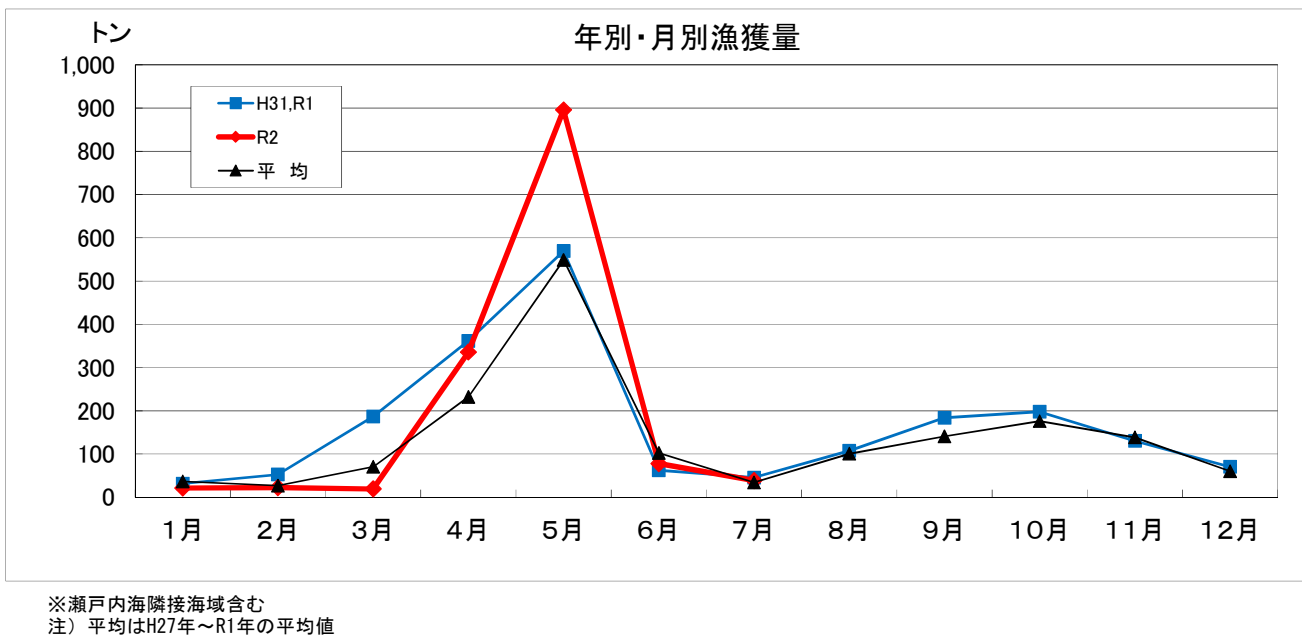
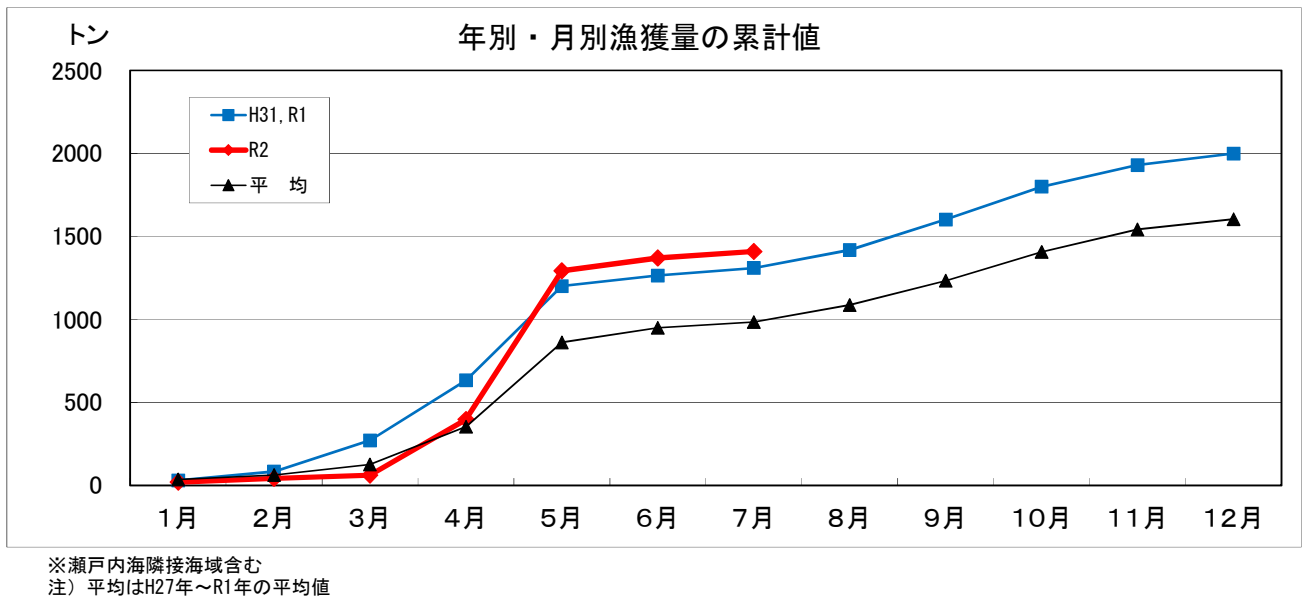
瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会は、国立研究開発法人水産研究・教育機構の指導・協力のもとで、サワラ種苗の共同生産の技術継承・マニュアル作成のため、関係11府県と連携してサワラ共同種苗生産・中間育成・放流に取り組む。

なお、種苗生産数量、中間育成等の詳細については、瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会で定める。

(3) その他の資源管理措置

上記(1)及び(2)の措置のほか、従来から取り組んでいる措置(定期休漁日、船上受精卵放流等)については、その取組を継続するよう努める。

サワラの漁獲状況（各府県からの漁獲報告による）



瀬戸内海における 2020 年前半の漁業がサワラ瀬戸内海系群の資源に与える影響の検討

令和 2 年 11 月 26 日

サワラ瀬戸内海系群の資源評価に携わる
関係 JV 機関ならびに有識者による検討結果

【使用データ】

本検討にあたり、以下の情報を使用した：

- ・大阪府における 2018～2020 年の 4・5 月漁期の流し網による尾叉長階級別推定漁獲尾数
- ・兵庫県における 2016～2020 年の漁業種別（流し網、はなつぎ網）尾叉長組成

以上、令和 2 年度第 1 回さわか検討会議資料より

- ・1～7 月の府県別サワラ漁獲量
- ・サワラ瀬戸内海系群における 2005 年～2019 年の月別漁獲量
- ・兵庫県における 2019～2020 年のはなつぎ網による漁獲量

以上、瀬戸内海漁業調整事務所による集計資料より

- ・2011～2019 年のサワラ瀬戸内海系群の漁獲量ならびに同 2020 年の予想漁獲量

以上、令和 2 年度サワラ瀬戸内海系群資源評価報告書より

【漁獲量の推移】

2020 年 1～7 月の累計漁獲量は、前年比 1.07（2019 年の 1～7 月の累計漁獲量は 1,310 トン）の 1,408 トンであった。2020 年 1～7 月の累計漁獲量が前年と比較して増加した府県（和歌山県：1.53、大阪府：8.39、兵庫県：2.91、広島県：1.88）と減少した県（岡山県：0.93、山口県：0.60、徳島県：0.44、香川県：0.77、愛媛県：0.34、大分県：0.66）があり、瀬戸内海全体としては前年と大きく変わらなかった（図 1）。

【漁獲物の年齢組成】

2020 年 1～7 月の漁獲物の主体は、2018 年級の 2 歳魚（尾叉長 60～70cm）であった（図 2、図 3、図 4）。

大阪府の 2020 年 4～5 月における流し網による漁獲の主体は、2018 年と 2019 年同漁期と同様に 2 歳魚以上の個体であったが、2020 年はその 2 歳魚の漁獲が著しく増加した（図 2）。

兵庫県における同時期の漁業種別尾叉体組成情報の経年変化（図 3）をみると、2020 年同漁期の流し網漁獲物の尾叉長モードは 60cm 台後半にあり、2019 年以前の同漁期と同様 2 歳魚を主体とした漁獲であったと思われる。一方、はなつぎ網による漁獲物組成をみると、2019 年同漁期までは尾叉長 50cm 台にモードを持つサゴシ銘柄の 1 歳魚が漁獲の主体であったが、2020 年同漁期の漁獲物のモードは 60cm 台後半で、流し網漁獲物におけるモード

と同じであった。はなつぎ網による漁獲物の年齢別漁獲尾数を推定し、2019 年と 2020 年とで比較した結果、2020 年には 1 歳魚の漁獲尾数は減少した一方、これまでほとんど漁獲されていなかった 2 歳魚が主体となり漁獲が大幅に増加した（図 4）。さらに、1 歳魚と 2 歳魚の体重の差もあり、それらを乗じた結果として 2020 年同漁期における漁獲量の極端な増加が生じたものと考えられる。

（なお、図 3 の 2020 年度兵庫県はなつぎ網漁獲物尾叉長組成における 1 歳魚および 2 歳魚の尾叉長モードに対応する推定体重は、1 歳魚が 1,128 g、2 歳魚が 2,524 g である。）

【当初の予測と実際の漁獲量との関係】

2020 年 8～12 月の漁獲量の推移については不確実性が高いが、過去においては 1～7 月と 8～12 月の漁獲量にはやや相関も見られている（図 5）。ここで、本年度の資源評価においては、2020 年の漁獲量は 2019 年と同様の漁獲圧が継続すると仮定して推定した。想定される 2020 年の年間漁獲量は、前年比 1.005 倍（2,369 トン、図 6）であることから、2020 年 1～7 月の漁獲量（前年比 1.07 倍）は当初の予測から大きく逸脱していないと判断される。

また 2018 年級群は豊度が高いと考えられており、2020 年の 2 歳魚の資源量は前年比の約 2 倍の 3,017 トン（2019 年の 2 歳魚の資源量は 1,638 トン）と推定されている。このため、想定される 2020 年の 2 歳魚の漁獲量も前年比約 2 倍となることが見込まれている。漁獲尾数においても、2 歳魚は 2019 年が約 27 万尾であったのに対し、2020 年では約 70 万尾に増加することが見込まれており、兵庫県および大阪府における 1～7 月の漁獲尾数の増分（概ね各 10 万尾）はこの範囲内に収まっていると判断される。

以上のことから、今漁期前半の漁獲量の増加は、資源評価における 2020 年漁期の推移予測の範囲内であり、資源の将来予測へ与える影響も大きなものではないと推察される。

【まとめ】

今漁期前半の特徴は、例年 1 歳魚を主体として漁獲されていた海域・漁業種類において、より大型の 2 歳魚が漁獲の主体として水揚げされたことが挙げられる。現時点で今漁期前半における年齢別漁獲尾数や年齢別平均体重の全てが押さえられているわけではないため、系群全体としての漁獲物の年齢比や年齢別漁獲重量等を明示することは出来ないが、漁獲の主体が大型の 2 歳魚になることにより、当該水域の漁獲量が増加したことが予想される。

資源評価の結果、2018 年級群は高豊度の年級であることが示されており、それが 2 歳魚となる今漁期には、2 歳魚の漁獲が前年よりも増加すると予測されていた。今漁期前半における漁獲量の増加は、その予測の範囲内にあると想定されることから、現時点ではこの好漁がサワラ資源に予測を超える範囲での影響は与えないと判断した。

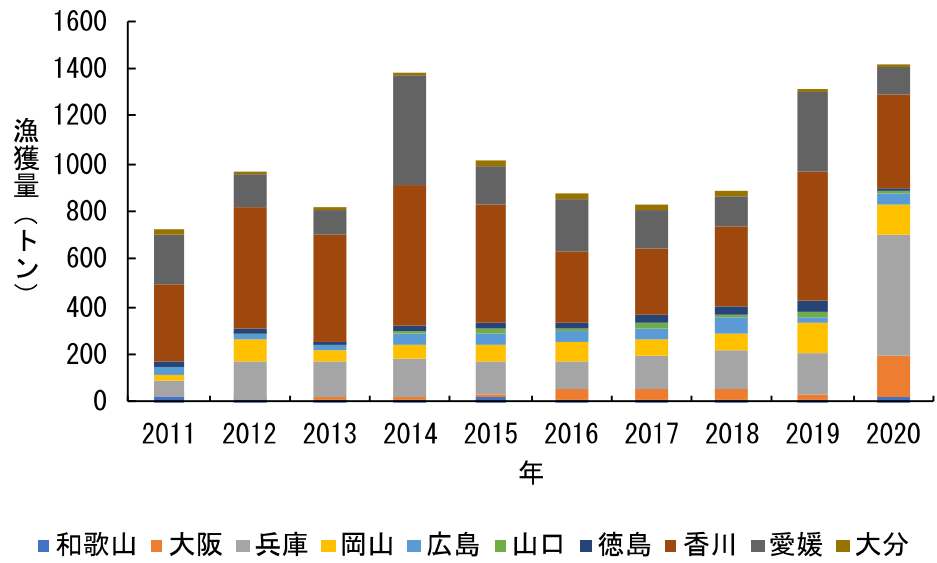


図 1. 1～7 月の府県別サワラ漁獲量の推移（瀬戸内海漁業調整事務所の集計値より作成）

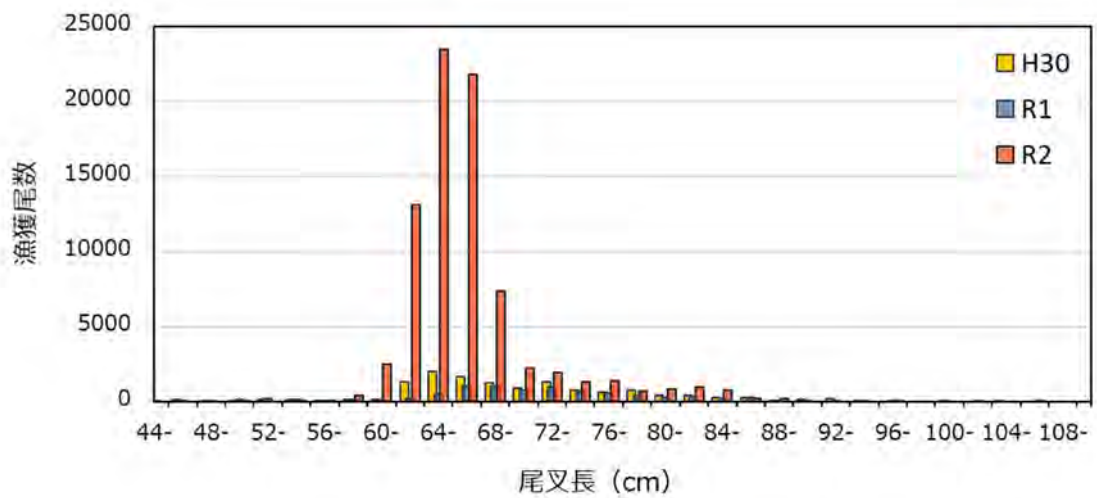


図 2. 大阪府における 4・5 月の流し網による尾叉長階級別推定漁獲尾数（令和 2 年度第 1 回さわら検討会議資料）

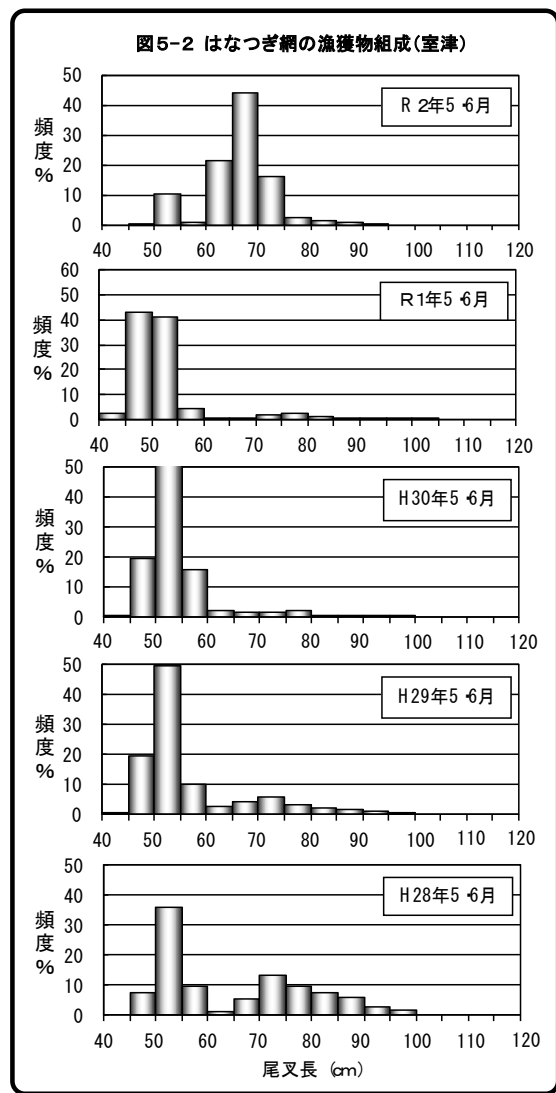
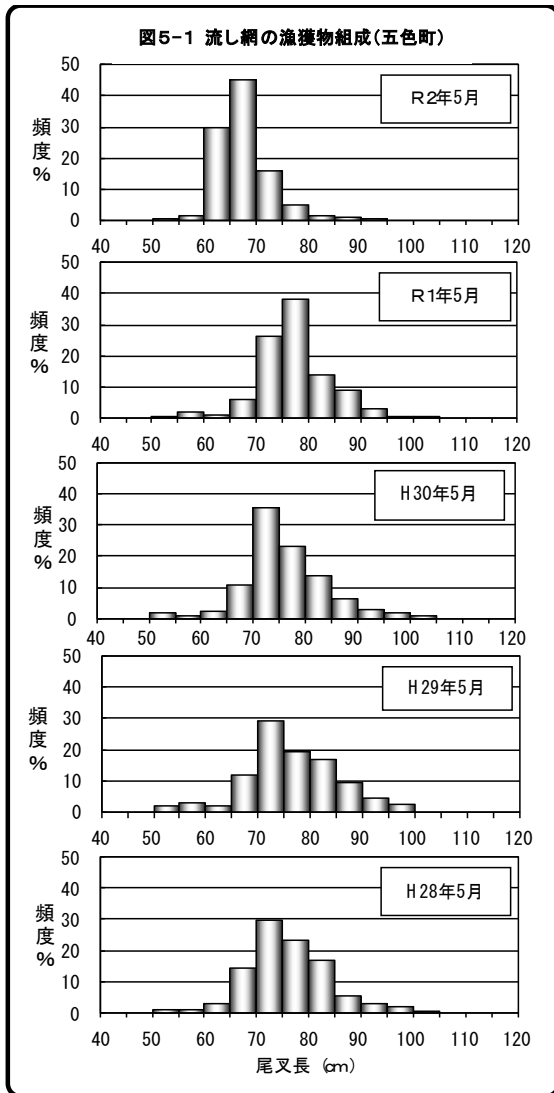


図3. 兵庫県における漁業種類別の尾叉長組成の経年変化(令和2年度第1回さわかき検討会議資料)

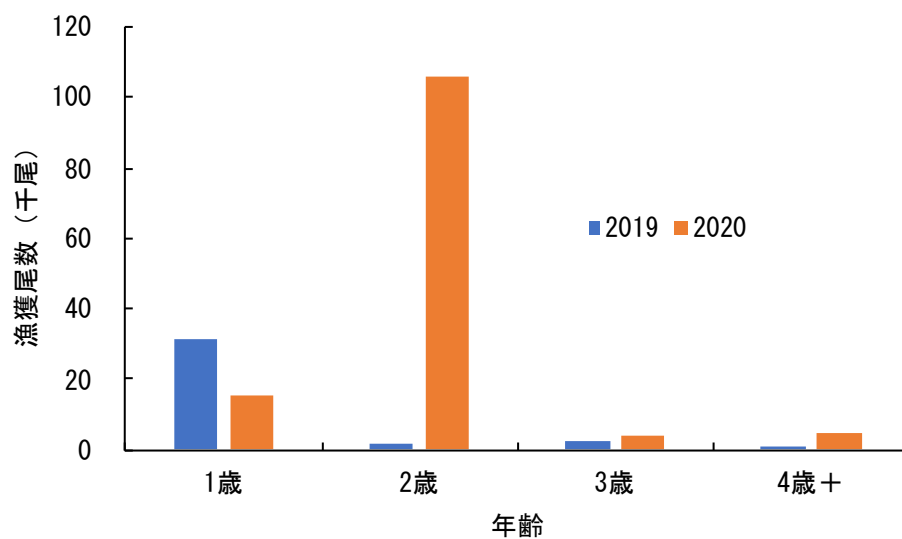


図 4. 兵庫県におけるはなつぎ網による 2019 年と 2020 年のサワラ年齢別漁獲尾数推定値の比較（令和 2 年度第 1 回さわか検討会議資料の図と瀬戸内海漁業調整事務所の集計値より推定）

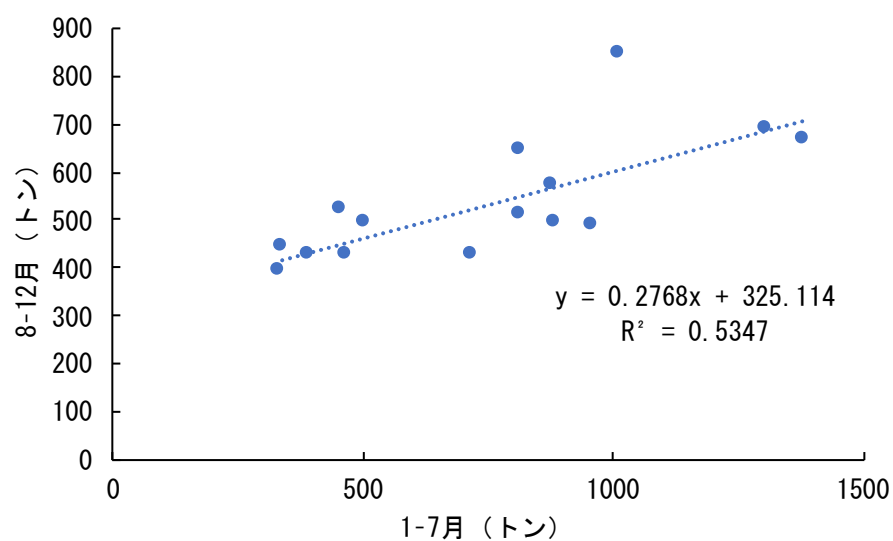


図 5. サワラ瀬戸内海系群における 2005 年～2019 年の 1-7 月と 8-12 月の漁獲量の関係（瀬戸内海漁業調整事務所の集計値より作成）

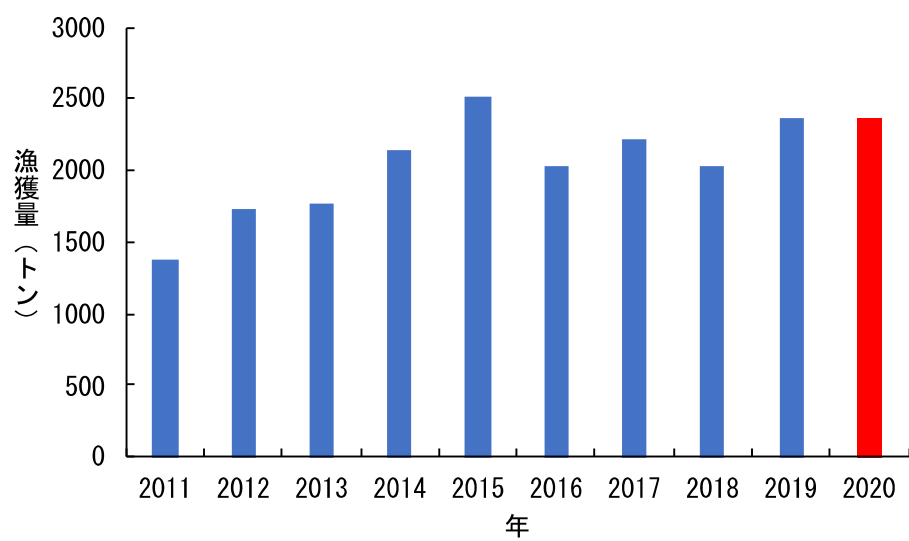


図 6. サワラ瀬戸内海系群の漁獲量の推移（青：実際の値、赤：予測；2020 年度資源評価票の値）

令和 2 年 2 月 1 3 日
さ わ ら 検 討 会 議

今後のサワラ資源管理の検討方向について

今後のサワラ広域資源管理について検討を進めて行くことにあたり、資源管理の目標等については、以下のとおりとする。

1. 資源管理の目標について

資源量を5,900トン以上に維持する。

2. 今後の資源管理の検討を進める方向

最新の資源評価を踏まえ1の目標を維持するよう令和3年度（2021年度）以降の資源管理について検討を進める。

なお、サワラ瀬戸内海系群において、改正漁業法に基づく資源管理目標の案等が示された場合には、当該目標案や管理措置等について検討を行うこととする。